

道 徳 科 学 習 指 導 案
主題名「垣根をこえて」〔学指要領：C（18）国際理解、国際貢献〕

令和6年10月 第2学年 指導者 宮崎 瞳

I 主題設定の理由


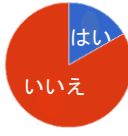
1 価値観

本主題は、C-（18）「国際理解、国際貢献」に基づき、「世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること」に関する内容項目である。

グローバル化が進む現代社会において、多様な文化や価値観をもつ人々と共生することは不可欠である。中学生には、国際的な視野をもち、日本人としての自覚と責任感をもって、世界の平和と発展に貢献できる人材に育ててほしいと考えている。そのためには、各国の伝統や文化を尊重し、全ての人が平等に扱われるべきという普遍的な価値観を理解することが重要である。異なる文化をもつ人々も自分たちと同じ人間として尊重しようとする道徳的心情を育てることが求められる。

2 生徒観

本学級の生徒に、以下二つの項目について意識調査を実施した。

1. 外国で起きていることなどに興味や関心がありますか。それはどのようなことですか。	
	<ul style="list-style-type: none">・ 貧困や外見差別について・ アメリカ大統領選挙・ 外国の流行や文化の違い・ 戦争や紛争・ 今、世界的に戦争や、地球温暖化などの数々の問題があり、それを解決するためのリーダーを決める選挙が世界各地で行われている。
2. 世界の中の日本人として意識していますか。それはどのようなことですか。	
	<ul style="list-style-type: none">・ 礼儀正しく優しさをもって接すること・ 日本語を話すこと・ 礼儀正しく生きていくこと

これらのことから、「外国で起きていることに興味や関心がある」と答えた生徒が 30%であり、半分以上の生徒が外国で起きていることについて興味がなかったり、世界の中の日本人としての自覚や立場について意識していなかったりしている生徒も多い。そこで、本授業を通して、多様な視点から国際理解について見つめることで、世界各国の諸課題に興味や関心をもち、国際的視野に立ち、世界平和のために貢献しようとする道徳的心情を育てたい。

3 教材観 教材名「六千人の命のビザ」（出典：「新しい道徳 2年」東京書籍）

第二次世界大戦中のリトアニア領事代理であった杉原千畝の妻の手記をもとにしたものである。当時、ナチスドイツから逃れるために多くのユダヤ人が、リトアニアの領事館に日本通過ビザを求めて押し寄せてきた。外交官としての立場に悩みながらも、職務に背き、自らの良心に従って多くの人命を救ったというあらすじである。

本教材は、杉原千畝の苦悩と決断に至るまでの心情を考えることを通して、国籍や人種、民族、宗教などの違いを超えて、世界の中の日本人として正しい行動をするためには何が必要なのか考えを深めることができる。杉原千畝の決断は、深い人間愛に基づき、国際的視野に立った行動であり、その勇気ある選択の背景には国境を超えた大きな愛が存在していることに気付かせたい。以上のことから、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする道徳的心情を育てることに適した教材である。

4 研究との関わり

本学級の生徒は、自他の考えを大切にし、一人一人の考えを認め、うなずきながら取り組んでいる様子が見られる。道徳科の授業において、意見交流を通して、多様な考えがあることに気づき、共感したり、異なる見方をしたり、問いに対する自分の考えを述べたりする力が育ってきている。しかし、自分の生活と教材を結び付けて考えることに課題が見られる。また、発言が表面的な言葉や雰囲気で終わり、友達との対話がすぐに途絶えてしまうため、考えの深まりにも課題が残る。特に、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」や「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」については、その傾向が顕著にみられる。

そこで、自己と向き合い、自分との関わりで道徳的価値を捉え、生徒が教材について自分事として考え、多様な視点から語り合うことで、道徳的価値の理解を深められるようになってほしいと考えた。

手立て1は、生徒自身が見通しをもち、自分事として考えるための導入の工夫として、①アンケート結果を基に、個の思いや考えを全体で共有する。②生徒のつぶやきを基に生徒と一緒に本時のめあてを設定する。③終末の振り返りで考えを比較し、学びを振り返ることができるよう、めあてに対する今の自分の考えを書く時間を確保する。

手立て2は、多面的・多角的な視点で価値を深めるためのインタビュー活動を設定する。その工夫として、①範読前に、登場人物や関係性、それぞれが置かれた状況を捉えられるよう、写真や動画を提示する。②生徒同士のインタビュー活動につなげるため、教師の範読を聞き、インタビューしたい「問い」を考えるよう促す。③生徒同士の対話からねらいに迫れるよう、ねらいを視点にし、登場人物役の生徒にインタビューを行う。④問い返しや補助発問による対話を通して、生徒が考えを深められるよう、「〇〇についてどう思うか」「なぜそう考えたのか」など問い掛ける。

手立て3は、終末に向けて、教材を通して考えたことから自他の考えを比較し、自分事として道徳的価値の理解を深められるよう、インタビュー活動を踏まえ、考えを聞きたい相手と自由に語り合える場を設定する。

生徒が自分事として道徳的価値の理解を深めるために、教師が準備した「与えられた」めあてや問いではなく、生徒がその場で考えた本当に知りたいことを聞くことができる「求める」問いで授業を進めていく。また、自分とは異なる立場になって考え、その考えを伝え合うことによって他者理解や人間理解を促し、「多面的・多角的な視点で、自分事として道徳的価値の理解を深める生徒の育成」につながると考えた。

II 本時の学習

- ねらい 「杉原千畝」の立場になった友達にインタビューし、対話した気づきから世界平和に貢献するために私たちにできることを多面的・多角的に考えることを通して、国際的視野に立ち、人間愛の精神をもって、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする道徳的心情を育てる。

2 展 開

主な学習活動 主な発問(◎中心発問◇補助発問) 予想される児童(生徒)の意識〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(導入5分)(★) S: 海外の問題に目を向けたことがなかった。 S: 外見差別や戦争がなく、安全で平和な世界がいいな。	◎「平和」という言葉を引き出せるよう、アンケート結果の「戦争」というキーワードから反対の言葉は何かを問い掛ける。 ◎生徒自身で学習課題を設定できるよう、事前アンケートの結果や生徒の「思い」をICTで共有し、他者の考えを見て感じた言葉を紡ぎながら、めあてを立てる。

<p>＜めあて＞世界中の人々が平和でいるために、一人の人間としてどんな心をもつことが大切だろうか。</p>	
	<p>○めあてに対する授業前半の考えを書かせ、自分の考えをもてるようにする。</p>
<p>2 教材の道徳的価値に気付くために、登場人物や関係性、それぞれが置かれた状況を捉える。（5分）</p> <p>S：外交官の仕事が分かった。</p> <p>S：何の罪もない命が危険にさらされるなんて…。</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。（展開①28分）</p>	<p>◎生徒が短時間で登場人物や関係性、それぞれが置かれた状況を捉えられるよう、以下の点について、写真や動画を提示し、次のインタビュー活動につなげる。</p> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・杉原千畝について ・当時のユダヤ人の迫害について ・外交官の仕事について ・当時の状況下でビザを発行したこと </div>
<p>◇杉原千畝の立場の生徒に「決断」という視点で質問したいことを考えましょう。</p>	
<p>※RS は主人公としてインタビューを受けている生徒</p> <p>S：なぜ発給拒否の通知が来たのにビザを発行しようと決断したのですか。</p> <p>RS：同じ人間として命を救ってあげたいという強い思いがあったから。</p> <p>T：今の千畝さんの思いについてみなさんはどう思いますか。</p> <p>S：私も命を救うことは大切だと思うが、見知らぬ人だったら助けようとは思わない。</p> <p>S：外務省という立場だから、自分にしかできないと思って助けたのかもしれない。</p> <p>T：命を救いたいという思いが強ければ、ビザ発給拒否のルールを破ってよいのでしょうか。</p> <p>RS：ルールを破ったら、仕事を失う可能性があるからいけないと思うが、目の前に助けを求めてきている人がいる以上、その命を見捨てるわけにはいかないから。</p>	<p>◎教師の範読を聞き、話し合う場面を焦点化できるように、視点を提示する。</p> <p>◎インタビュー活動がしやすいよう、教卓前に「杉原千畝」の立場として2名の生徒を着座するようにし、対話しやすい環境を整える。</p> <p>◎多面的・多角的な視点からねらいに迫れるよう、生徒の質問を全体で考えるよう促したり、問い返しをしたりする。</p> <p>○「不安」という意見に対して、具体的な内容を引き出し、「家族（千畝さんの妻）」の思いについて考えられるよう、「家族の一員だったらどうするか」「ユダヤ人の立場だったら」など視点を変えて考えられるよう問い掛ける。</p>
<p>S：家族や仕事を失うかもしれない中、杉原千畝の決断を支えたものは何ですか。</p>	
<p>RS：妻が応援してくれ、自分にしかできないことから、命ある人間を「助きたい」「救いたい」という思い。</p> <p>S：国籍や人種が違う立場の人でも、命がある人を絶対に見捨てられないという思い。</p> <p>T：あなたが千畝さんの家族だったら、多くの人のために仕事や家族を失ってでもビザを発行することを決断したらどうしますか。</p> <p>RS：仕事を失っても、目の前に救いたい命があって正義感のある家族を尊敬するから応援する。</p> <p>S：友達や家族、知り合いなら助けてほしいと思うが、家族を犠牲にしてまでは…という思いがあ</p>	

<p>るから反対する。</p> <p>◇インタビュー活動を踏まえ、今の自分はどんな気持ちだろうか。</p> <p>S：家族や友達だったら絶対に助けたいと思うが、見知らぬ人だったら助けたいとは思いますが、実際に行動に移すのは難しいかもしれない。</p> <p>S：私がユダヤ人の立場だったら、国外へ逃げたい。発行してもらえなかったら、悲しいし、目の前で命を見捨てられることは辛い。逆に、杉原千畝の立場だったら、命を見捨てたという罪悪感を抱いてしまうと思う。</p>	<p>◎インタビュー活動を踏まえ、教材を通して考えたことから、考えを聞きたい相手と自他の考えを比較しながら、自分事として道徳的価値の理解を深められるよう、自由に語り合う場を設定する。</p>
<p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。（展開②5分）</p> <p>◇世界中の人々が平和でいるために、一人の人間としてどのような心をもつことが大切だろう</p> <p>S：国籍や文化の違いにかかわらず、誰に対しても平等に接しようとする心。</p> <p>S：相手のために愛をもって行動しようとする心。</p>	<p>○最初の考えより深まったことが実感できるよう、考えの変わったところはないか問い掛ける。</p>
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。（終末7分）</p>	<p>○新たな気づきをもとに「めあて」に対する考えを深め、学びを自覚できるよう、振り返りの視点を示す。</p>
<p>「多面的・多角的な見方」の視点：体験的な学習やインタビュー活動を通して、感じたこと、気付いたこと、発見できたこと。</p> <p>「自分自身との関わり」の視点：①授業を受けるまでの自分はどうかだったか。</p> <p>②授業を通して、これからの自分はどのようにしていきたいか。</p>	
<p style="text-align: center;">↓</p> <p><振り返り></p> <p>S：今までは海外のことについて興味はなかったが、授業を通して、他人だから関係ない、日本じゃないから関係ないではなく、世界のことにもっと関心をもつことが大切だと思った。私たちにできることは小さなことかもしれないが、国際社会の一員として、国籍や生まれ育った文化や環境は違っても同じ人間として壁を作らず、平等に接していきたい。</p>	

◆評価の視点

体験的なインタビュー活動から、「人類全体の幸福に貢献することの大切さについて、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。

発言・ワークシートの記述から、「人類全体の幸福に貢献することの大切さについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。

3 板書計画

「垣根をこえて」六千人の命のピザ

めあて:世界中の人々が平和でいるために、
一人の人間としてどの「ユダヤ人」ことが大切だろうか。

世界 戦争 ↔ 平和
笑顔 幸せ 安心 安全

国外へ逃げたい
助けてほしい
生きたい

命を救いたい
後悔したくない
外交官として
同じ人間として

信頼 覚悟
応援したい

杉原千畝

杉原千畝の妻



外国で起きていることなどに
興味や関心がありますか

はい
いいえ

いま 政治 リーダー
アメリカ 行う 外国 戦争 貧困 決める
選挙 数々 地球温暖化 世界各地 大統領選挙
ウクライナ 流行る 世界 外見 解決
vs 問題